

8月定例教育委員会議事録

- 1 日 時 平成24年8月20日(月)午前9時30分から午後0時30分
- 2 場 所 宗像市役所本館3階・301会議室
- 3 出席委員 委員長 井上裕之
委員 川上美子
委員 平田良枝
委員 中岡政剛
教育長 久芳昭文
- 4 その他の出席者 教育部長灘谷辰生、市民協働・環境部長福崎常喜、子ども部長柴田祐治、教育部理事兼主幹指導主事後藤正弘、教育政策課長安部武彦、教育政策課指導主事羽田野崇、教育政策課指導主事西島潔、教育政策課指導主事正路澄代、学校管理課長占部晃、子ども育成課長中野万由美、図書課長星野忠士、市民活動推進課長磯部輝美、郷土文化学習交流課長清水比呂之、市民活動交流室長中村慈宏、経営企画部世界遺産登録推進室長岩佐芳弘、図書課学校図書館係企画主査織戸由美子、教育政策課主幹兼政策係長岡田光晴、教育政策課政策係主任主事許斐知加、宗像市学校適応指導教室統括職員石橋千宜、宗像市市民参画等推進審議会委員(市民活動推進プラン策定部会長)井上豊久、同審議会委員(同策定部会委員)辻洋子、同審議会副会長東博子、同審議会委員松永年生

※ 傍聴 1人

- 5 前回(7/20定例)議事録の承認(資料1)〈承認〉

6 議案

- ① 議案第21号 宗像市郷土文化学習交流館協議会委員の選任(案)について(資料2)

〈承認〉

【久芳教育長】 資料2参照。議事録なし。(▲19秒)

【郷土文化学習交流課長】 資料2参照。議事録なし。(▲51秒)

【井上委員長】 ご意見ご質問がございますか。

【平田委員】 郷土文化学習交流館と「家庭教育の向上に資する活動を行う者」の関連性について、お聞かせいただければと思います。

【郷土文化学習交流課長】 非常に広い分野になりますが、特に青少年の皆さんに交流館に来てもらって活動や学習を行っていただくためにはどのような内容にしたらよいのかについて意見をいただくため、家庭教育の向上に資する活動を行う方を委員に選任しています。

【平田委員】 そのような意味からしますと、「青少年の育成に関わる者」という表現の方が適当だと思います。家庭教育とは違うのではないかという気がいたしました。

【郷土文化学習交流課長】 先ほど冒頭でお話しましたように、この分野は非常に広い範囲ととらえておりまして、現在、例えば体験学習で来館される子どもさんの状況をみますと、非常に小さなお子さんも加わって親子同伴で参加される姿がよくみられます。親子で楽しめるような館の運営を考えていきたいということから、ここでは家庭教育を広い範囲で解釈しています。

【井上委員長】 交流館条例につきましては、以前の定例教育委員会で承認しています。

【川上委員】 オープンして随分日が経っていますが、この時期からの委員招集で大丈夫ですか。

【郷土文化学習交流課長】 本来であれば、オープンに合わせて委員構成も含めてお願いすべきでしたが、開館当初からスケジュールが非常にタイトだったこともありまして、ある程度状況が落ち着いて、少し実績も踏まえた上でスタートを切りたいということで、今回選任することとしました。

【久芳教育長】 これまでの入館者数を教えてください。

【郷土文化学習交流課長】 オープンして約3カ月半が経ちますが、もう少しで5万人に達する予定です。おそらく本日も明日に5万人になると思います。

【久芳教育長】 夏休みの子どもたちの利用状況はどうですか。

【郷土文化学習交流課長】 夏休み期間中の特に週末の土日に関しましては、親子で参加できるような体験学習メニューをそろえております。古代体験、ロボット作り、トヨタと連携してのものづくり教室等です。大変好評で、朝来られて閉館までずっとおられるような子どもさんも多い状況です。

【井上委員長】 委員名簿にある亀井輝一郎さんは、昨年退職されて現在は特任教授になっていらっしゃると思います。「役職等」の欄に「教授」と記載されていますので、確認をお願いします。

【郷土文化学習交流課長】 福岡教育大学に確認しましたところ、教授で間違いはないとのことでした。

【井上委員長】 他にご意見等がなければ、議案第21号につきまして承認いただけますか。

【各委員】 はい。

【井上委員長】 協議事項につきましては、宗像市市民参画等推進審議会と市民活動推進プラン策定部会の方が出席されるため、また、教職員の人事案件であるため、報告事項終了後に協議を行います。

7 報告事項

① 行政報告（資料4）

【久芳教育長】 7月20日以降の主な行事等について報告させていただきます。7月21、22日に韓国の金海市に行つてまいりました。姉妹都市提携による宗像市と金海市との交流が始まって本年で20年です。市内ではいろいろな団体が交流していますが、少年野球チームの交流が10周年を迎えるということで市の代表として参加させていただきました。約35人の子どもたちがおりまして、全体では70人近い団員で訪問しました。子どもたちは野球の試合の他にホームステイを

行い、異文化体験の非常に良い取組みになったと思います。これは民間ベースで行われているもので、今後も継続していきたいというお話でした。7月25日に人権同和講演会が開催されました。本年度も委員の皆さんには街頭啓発をお願いしましたが、講演会当日はハーモニーホールのおよそ半分の席が埋まる状況でした。650人近くの市民にお集まりいただき、委員の皆さんをはじめ、教育関係者からも校長、教頭等が可能な限り参加して有意義な講演会になりました。改めてお礼申し上げます。7月27日から8月9日まで次世代リーダー養成塾が開催され、今年も本市の高校生3人を含めて165人の塾生が学びました。特別公開講座では著名な講師の講話をいろいろな方に聞いていただくという趣旨で参加を呼びかけています。特別公開講座も含めて全部で140人近い参加があったとのことでした。市の職員も聴講しておりまして、今後の市政に役立てることができればと思います。8月4日に宗像・沖ノ島と関連遺産群世界遺産推進会議が、知事はじめ宗像市、福津市両市の市長の出席のもとで、福津市で開催されております。会議の詳細につきましては、後ほど担当が報告いたしますが、今回は専門家会議から世界遺産に推薦する構成遺産の案が示され了承されております。その他に主なものとしまして、8月11日に開催された「世界一歩行きたい科学広場 in 宗像2012」には主催者側の当初の見込みをはるかに超える約3,800人の参加がありました。宗像市も実行委員会に参加して本事業に関わらせていただいておりますが、東海大学の滝川教授をはじめ、東海大学付属第五高校の先生方、関係者の皆さんのご尽力で成功裡に終わりました。次年度以降も引き続きこの取組みを行っていききたいと思います。同日に開催された通学路安全対策会議につきましては、後ほど担当がご報告いたします。最後になりますが、8月16日に福岡県市町村教育委員会連絡協議会主催の教育長研修会に出席しました。この中で小中一貫教育に取り組んでいる苅田町について紹介がございました。苅田町は非常に財政力豊かな自治体でございまして、教育に多額の予算を配分しています。宗像市の4割以下の規模ですが、町費で講師を20人ほど任用しており、電子黒板も配備しています。まだ全体には行き渡っていませんが、将来的には全ての学校の全てのクラスに入れたいという要望があるそうです。非常に恵まれた環境の中で教育が行われていますが、問題は、その環境を十分生かしきれているかどうかということだと思います。本市においても、教育環境においては他市町に負けないくらいの整備をしておりますので、恵まれた環境に応えるような取組みを、ぜひ進めていきたいと改めて感じた次第です。

【川上委員】 図書課が「調べる学習コンクールなんでも相談室」を新しく開催されておりますが、もう1つ目新しい取組みがあります。「ぬいぐるみのおとまり会」という企画について説明いただけますか。

【図書課長】 「調べる学習コンクールなんでも相談室」は、毎年行なっている調べる学習コンクールについて相談を受けるものです。21日に11組、27日に12組の参加がありました。「調べる学習コンクールなんでも相談室」と「ぬいぐるみのおとまり会」の内容については織戸企画主査がご説明いたします。

【図書課織戸企画主査】 「調べる学習コンクールなんでも相談室」では、夏休みに入っすぐの開催でし

たので、テーマの決め方と具体的な進め方について説明し、子どもたちが積極的に取り組むことができるよう関わりを持ちました。「ぬいぐるみのおとまり会」は子どもたちが自分の好きなぬいぐるみを持って来て、ぬいぐるみと一緒にお話会で読み聞かせを聞いた後、図書館にぬいぐるみを預かってお泊りさせるものです。ぬいぐるみが本を読んでいる場面や貸出しをしている場面を写真に収めまして、後日ぬいぐるみを迎えに来た子どもたちに、その写真をお土産に渡し、図書館がおすすめする本を借りてもらいました。

【川上委員】 それで新しく図書館の利用者になられたケースはありましたか。

【図書館織戸企画主査】 手元に資料がございませんので、調べまして後日回答いたします。

【井上委員長】 ぬいぐるみを泊らせるというアイデアはどこから出たのですか。

【図書館織戸企画主査】 他の自治体の図書館で行っている事例がありましたので、それを参考に宗像版にアレンジして実施しました。

② 後援報告（資料5）議事録なし。

③ 宗像市史跡等保存管理推進委員会委員について（資料6）

【世界遺産登録推進室長】 本件につきましては、本来であれば6月の定例教育委員会にお諮りすべきでしたが、市民代表委員の選定に時間を要し、決定したのが6月末だったため提示することができませんでした。その後の7月定例教育委員会でも報告をせず、本日の報告になりましたこととお詫び申し上げます。

以下、資料6参照。議事録なし。（▲1分7秒）

【井上委員長】 最近、各課において報告が遅れがちですので、今後はこのようなことがないようにしてください。

④ 平山天満宮本殿の市指定について（資料7）

【郷土文化学習交流課長】 資料7参照。議事録なし。（▲2分34秒）

⑤ 宗像・沖ノ島と関連遺産群世界遺産推進会議について（資料8）

【世界遺産登録推進室長】 資料8参照。議事録なし。（▲1分35秒）

⑥ 平成23年度宗像市青少年センター施設の管理及び運営状況について（資料9）

【子ども育成課長】 資料9参照。議事録なし。（▲1分20秒）

【学校適応指導室統括職員】 資料9参照。議事録なし。（▲3分56秒）

【平田委員】 石橋室長の報告を聞かせていただき、適応指導教室の日々の充実した取り組みが子どもたちの復帰につながっていると感じました。復帰後のフォローもきちんとされていて、とて

も安心いたしました。昨年は課題として基礎学力や体力の向上があがっていましたが、今年度の課題は何でしょうか。

【学校適応指導教室係職員】 学習の補充は高校への進学保障のために必要なことですが、体を動かすことが非常に大事であるということが昨年よく分かりました。今年度から週に3回、午後活動の前に運動を取り入れたり、メイトムのホールやユリックスのグラウンドを借りて月例のスポーツ大会を実施したりしています。コミュニケーション能力を高めるためにみんなで1つのことをやり遂げる取組みも行っています。長縄とびで跳ぶ回数を増やすなど、単純なことですが、お互いに声をかけあってみんなで取り組むことが大切だと感じています。

【井上委員長】 子どもたちは体を動かすことを嫌がりませんか。

【学校適応指導教室係職員】 小集団でやり始めれば、学年は関係なくみんなで盛り上がりやっています。嫌がるのは最初だけです。

【川上委員】 不登校についての相談には来たけれど適応指導教室に通うまでにはなっていないお子さんがかなりの数いらっしゃると思いますが、その子たちのケアのために、学校を回られたり、学校の先生方とコミュニケーションをとって情報を共有されたりしているのでしょうか。

【学校適応指導教室係職員】 はい。担任、学校長も含めた先生方に適応指導教室に来ている子どもたちの状況をもっとよく知ってほしいと思い、学校を訪問しています。

【川上委員】 適応指導教室から学校に出向くなどの地道な取組みは本当にありがたいことだと思います。垣根を越えてもっと相談に行きやすい形をとっていただけるように、私たちも学校に対して働きかけたいと思います。やはり保護者の意識を変えないと難しい部分もありますので、一層の相互間の努力を惜しみなくしたいと思います。

⑦ 平成24年度小学生読書リーダー活動推進事業実施報告について（資料10）

【図書課長】 資料10参照。議事録なし。（▲1分22秒）

【川上委員】 県の事業としては今年限りの実施だと思いますが、とても素晴らしい試みですので、宗像市として次年度以降も継続していくことを検討されていますか。

【図書課長】 来年度も何らかの形で継続していきたいと考えております。

⑧ 通学路の安全対策について（資料11）

【教育政策課長】 資料11参照。議事録なし。（▲1分52秒）

【川上委員】 その他というのは具体的には何ですか。

【教育政策課長】 市道の歩道にかかっている草を刈ってほしいという案件です。

【井上委員長】 すぐにできることであれば迅速に対応していただきたいです。

【平田委員】 「改善困難」のところで、児童生徒への安全指導やPTA等による見守り等で対応してほしい案件とありますが、地域の見守り隊の方にも危険箇所について周知されているのでし

ようか。

【教育政策課長】 今回の危険箇所につきましては、地域、PTA、学校で協議して出しあったものが学校からあがってきていますので、認知はされていると思います。学校から通学路の安全対策のために地域やPTAに対してお願いをする動きは引き続き行っています。

⑨ 平成24年度中学校保健体育科「武道」の実施状況について（資料12）

【教育政策課長】 資料12参照。議事録なし。（▲2分10秒）

【川上委員】 柔道を選択しているのに外部指導者は不必要としている学校は、体育の先生が指導できるということですか。

【教育政策課長】 有段者の体育教師もおりますし、経験等があつて自校で対応できるという学校もあります。必要に応じて柔道協会にお願いをしていく意向を持っています。

【川上委員】 先生お1人よりも、補助的に指導に入っただけなら安心して体育の授業を行えると思います。自由ヶ丘中学校の1学年は、柔道にバツ印がついていますが、別の種目に変更したということですか。

【西島指導主事】 当初はそうでしたが、1年生も柔道を選択する旨の連絡が先日ありましたので訂正をお願いします。

⑩ 中学生職場体験事業（ワクワクWORK）の受入事業所について（資料13）

【教育政策課長】 資料13参照。議事録なし。（▲50秒）

【平田委員】 以前の定例教育委員会で川上委員がおっしゃいましたが、アンケートで「生徒の意欲に欠ける部分が気になった」という事業所からの意見がございましたので、その点について学校で対応していただきたいと思います。

【教育政策課長】 生徒には事前研修で十分に事業の趣旨及び心構えを指導していただくことによりしております。

【平田委員】 毎年そうしていらっしゃると思いますが、昨年度はそのような意見が出されたということですので、もう一度押さえていただきたいと思います。

⑪ 2学期の学校改善訪問について（当日配布資料）

【羽田野指導主事】 当日配布資料。議事録なし。（▲1分22秒）

⑫ その他

【教育政策課長】 6月の定例教育委員会で承認いただきました学校情報化モデル検証事業の研究指定校であります自由ヶ丘中学校、河東西小学校、玄海中学校区の4小中学校に2学期から電子黒板を導入します。導入に伴う作業が予定通り進んでおりますことを報告いたします。次に、運動会と

体育祭が秋に実施される5つの学校につきまして、委員さんの割り振りをさせていただきました。本日お配りした資料をご覧ください、出席をお願いしたいと思います。

【羽田野指導主事】 明日宗像ユリックスのハーモニーホールで開催される全体研修会・教育講演会の実施要項をお配りしています。内容としましては大きく2つでございます。まずは宗像市小中一貫教育の充実・発展に向けた取組みということで、河東中学校区、自由ヶ丘中学校区の取組みの様子について発表があります。続きまして、指導助言および講話を福岡教育大学の大橋先生に行っていただきます。その後は講演となっております。委員の皆さんのご参加をお願いいたします。

【世界遺産登録推進室長】 お手元にカラー刷りの資料を2枚お配りしています。9月は「むなかた世界遺産月間」オガチマンスとして様々なイベントが開催されます。大きなものとしては、9月17日に宗像ユリックスのハーモニーホールで、市民の会による「むなかた三女神記～沖ノ島に虹がかかる日～」という子どもたちを主にしたミュージカルが上演されます。今年で4度目の上演になりますが、今年からは第2章ということで新たに脚本を書き替えております。非常に素晴らしい内容でございます。出演する子どもたちは4月から練習を重ねています。午後1時と午後5時の2回に分けて上演されます。チケット代は大人1,000円、子ども500円です。教育委員の皆さんにはぜひ観ていただきたいと思っております。9月8日に「世界遺産をめざしたまちづくり～文化遺産とわたしたちの暮らし～」というテーマで「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産シンポジウムが開催されます。3人の講師による講演とパネルディスカッションが計画されておりますのでぜひ足をお運びいただけたらと思っております。この他に関連行事としまして、9月17日に沖ノ島カップヨットレース、9月30日にみあれ祭の前夜神迎えということで、県道69号線の「海の道むなかた館」から玄海小学校までの灯籠イベントと神湊での花火大会を予定しております。最後に「海の民宗像－玄界灘の守り神」という冊子をお配りしております。世界遺産登録活動を進めていく上で若い方に対する浸透、啓発がなかなか進んでいない現状がございますので、このたび梓書院が発行している季刊誌に世界遺産に関連した漫画を掲載するものです。8月号に第1話が載っておりますが、今後2年間で計8回連載する予定です。

【郷土化学習交流課長】 「海の道むなかた館ミュージアムコンサート」の資料を配布しています。9月21日に午後6時半と午後7時半の2回に分けてミュージアムコンサートを開催します。開館当初にオープニングイベントとして展示室でミニコンサートを開催したところ大変好評でした。9月、11月、1月、3月の隔月になりますが、展示室でのミュージアムコンサートを考えております。9月21日は第1回目でギタリストの橋口武史さんによるクラシックギターのコンサートを催します。夜の雰囲気を楽しんでいただけるような企画にしておりますので、ぜひお越しください。

【図書課長】 図書館まつりのチラシを配布しております。第4回図書館まつりを9月16日日曜日に開催します。イベント内容は裏面のとおりです。委員の皆さんには、時間に都合がつきましたらぜひご来館いただきますようお願いいたします。

8. 協議事項

① 宗像市市民活動推進プラン（素案）について（資料3）

宗像市市民参画等推進審議会、市民活動推進プラン策定部会からの出席者及び教育委員の紹介
（議事なし）

【井上委員長】 協議事項としておりますが、市民活動推進プランについての意見交換の場としたいと思います。これまでの経緯を簡単に説明させていただきます。教育委員会に最初に話が出てきたのが平成23年6月22日でした。「生涯学習推進プランの見直し」という議題で市民活動交流室から提示され、「生涯学習推進プラン」を「市民活動推進プラン」に持っていきたいという内容でした。市民活動推進プランの作成項目案が示されていましたが、項目立ての中で生涯学習という言葉が非常に薄まっている印象を受けるという意見が教育委員から出されました。次に、昨年7月21日に開催された定例教育委員会において同じ議題で議論させていただき、いろいろな意見が出されました。議事録も5ページに渡っています。そこでの意見を集約しますと、生涯学習が市民活動推進に移行しているというものでした。平成22年3月に策定された「第1次宗像市総合計画」では、市民活動の推進が非常にクローズアップされ、生涯学習が市民活動推進の中に位置づけられるという印象を受けました。昨年8月22日に市民活動推進プランの策定について、市長から市民参画等推進審議会会長あてに諮問がなされました。諮問後に市民参画等推進審議会と市民活動推進プラン策定部会でプランの策定が進められてきていますが、しばらくプランに関する報告は教育委員会になされていません。今年2月に開催された定例教育委員会で市民活動推進プランの策定スケジュールの変更について報告があり、6月の定例教育委員会においてプランの内容について説明を受ける予定になっていましたが、その報告がなされなかったために現在教育委員はプランの策定状況がよく分かっていません。本日の定例教育委員会でプランについて協議することになりましたが、昨年11月30日に行われたプラン策定にあたっての意見交換会の結果報告もないままで状況が見えないため、一度意見交換をさせていただきたいと思ひまして、このような場を設定させていただきました。どうぞよろしくお願ひします。

【市民活動交流室長】 教育委員長からお話があったとおり、今年2月に開催された定例教育委員会で報告した策定スケジュールの変更につきましては、趣旨として3点あげておりました。1点目は、市の施策の大きな柱にかかる計画のため、策定までのプロセスを大事にして十分な時間をかけて審議していくということです。2点目は、市民活動に関する実情や課題把握のために団体アンケートを実施すべきであるということです。3点目は、市民活動団体等から直接意見を聴取する機会を設けるべきだということです。これらによってスケジュールを変更、延長しました。3点目の意見交換会につきましては、昨年11月30日に開催した際に、現状と課題把握後の施策の方向性について、もう一度意見交換会を行ってほしいという要望があがりましたので、今年7月10日に2度目の意見交換会を開催しました。策定に係るプロセスを大事にしながらか進めてきた結果、素案をお示しす

るのが今月になりました。当初の予定では6月に報告としておりましたので、結果としてスケジュールがずれこみ、報告が遅れたことについてお断り申し上げます。今回お示しておりますのは、あくまでも素案です。策定部会としましてもプラン策定にあたっては、ぜひ教育委員の意見もお伺いしたいという意見がございましたので、今回意見交換の機会を設けております。本日はいろいろな意見をお聞かせいただき、また検討に入りたいと思います。併せまして庁内にも素案について報告をしております。最終的には、教育委員の皆さんからいただいた意見と庁内で出された意見を参考にしながら答申案をまとめていきたいと思っております。

【根拠職方総務課長】 本日は貴重なお時間を割いてこのような意見交換の場を設定いただき、ありがとうございます。策定部会でも教育委員の皆さんとの意見交換を行いたいという意向を持っておりました。先々週に教育部長にお会いして、ぜひ顔をあわせて直接ご意見を伺わせていただきたいとご無理を申し上げまして、急きょ一緒させていただくことになりました。プラン策定にいたる流れにつきましても、私もすべてを把握しているわけではなく、諮問がなされる前の部分につきましても特になかなか存じ上げないところもあり、今お話を伺ってわかった部分がありました。スケジュールが遅れた理由としましては、大事なプランなのでじっくり時間をかけたいという思いがあり、策定部会と全体の審議会ですっきりと内容をつめていきたいとお願いした経緯があります。内容につきましても、市民活動交流室長の説明にもあったとおり、意見交換会やアンケート結果等を踏まえたいと思っております。本日は事前に資料を送らせていただきました。かなりの量でございますので、すべてに関して細かくご意見をいただくのは難しいと思いますが、特に生涯学習や社会教育など教育に関わる部分について率直なご意見をいただけたらと思います。具体的なご意見でも抽象的なご意見でも結構です。本日は策定部会、全体の審議会からそれぞれ2名が参加しております。最近では2週間に1回程度会議を開催しておりますので、本日いただいた意見について検討させていただきたいと思っております。

【市民活動推進課副課長】 補足させていただきます。これまでの経過について井上委員長のお話をお聞きしまして、やはり1つは市の機構の中で生涯学習が教育委員会から市民部局に移ったことがあるのではないかと思います。昨年7月に協議された後に一度意見交換会ができていたらもっとよかったのにといい思いがいたしました。私も原田市長の時から市民活動にいろいろと関わっていますが、平成13年4月に学びの里宣言をされて、生涯学習の都市づくりを一度は中心にすえられたと思います。それで教育3プランを作られて、生涯学習推進プランもその中に入っておりました。その後の宗像市の展開の中で、計画の前段にも述べているとおり、生涯学習については全国的に見ても、市民学習ネットワークなど、宗像市は非常に活発にされています。市民活動の分野においても、福祉分野などで20年、30年以上に渡って本当に地道に活動されている団体がたくさんあって、その点でも宗像市は福岡県内でも非常に評価されています。そのような流れの中で、特に市民活動の方が表に出るようになり、まちづくりに積極的に関わる団体が増えました。宗像市全体を考えた時に、これからのまちづくりで生涯学習をしないということではなく、むしろ生涯学習と市民活動と

というのは非常につながりが深いと思っています。私自身、10数年前から子育て支援をしている中で、人材養成として市民活動のボランティア養成講座を市と一緒にやり、地域でいろいろな活動をする中で出てきた課題を学んで活動の中に生かしていきました。市民活動の充実において、学びは必ず必要ですし、生きがいなど個人の学びももちろん大事ですが、これからはただ学べばよいということではなく、市民活動の中で生かせるようなことが重要だと思います。国の中央教育審議会でも新しい方向性が出ていますし、一昨年、昨年と県の社会教育研究大会に参加させていただきましたが、そのテーマが新しい公共ということでした。県全体としても新しい公共ということで、地域との関わりやそのような活動、実践を重視する方向になっています。これまでずっと関わってきた者として、むしろ宗像市はそういうものを先取りしているのではないかと思います。今お話を聞きまして、教育委員会に対しましては、途中経過をもう少し丁寧に報告してご意見をいただければいいかなと思います。

【井上委員長】 7月に議論した後が空白ですので、その間に取り組まれたことの報告も含めて、本日は活発な意見交換ができればと思います。ご意見ご質問がある方はお願いします。

【川上委員】 私たちは教育の観点からこのプランを見ていますが、一番心配な点は、確かに生涯学習の土台があって市民が活性化して、その結果として市民活動推進があると思いますが、そこだけに注目することによって、その土台が揺らぐのではないかとということです。生涯学習推進プランとしてある時期は、その部分がしっかりあった上での市民協働だったと思います。東副会長がおっしゃったように、市民活動推進が優れた形、高まりを感じた形として存在し、その点において宗像市では非常に盛んであるのは素晴らしいことだと分かっていますが、そこだけに行政が目しすぎて土台が揺らぐのではないかとこの心配がありましたので、去年7月の時点で、土台をしっかりしてほしいという意見を述べさせていただきました。もう一つ心配なのは、子どもを対象として活動されている市民の方がたくさんいますが、市民活動推進プランの対象は市民ですので、子どもたちの活発な団体としての位置づけがどうなるのかということです。子どもが主体になる場合は青少年としての枠になるので、子どもの活動自体は所管の子ども部に移るというプランの形になっていると思います。生涯学習推進プランでは10代のことにふれていましたが、市民活動推進プランの対象は選挙権を持った20歳以上ということで、今回は10代の部分にあまりふれられていません。今までの経緯の中でスポーツや芸術の取組みが広がっているという部分だけで、特に10代の生涯学習を踏まえての市民参画については、限定した年齢によることは書いていないのも心配な点です。

【市議団長】 ご指摘の生涯学習の土台が揺らぐ、生涯学習の事業自体を充実させるということは、中でも少し考えていかなければならないことだという感じはございました。もう一つはこのプランを立てる時に、スポーツや文化芸術など既に他にプランがあるものについては重複しないようにしています。コミュニティにつきましても、コミュニティに関するプランが既にあると検証もされていますので外す方向です。川上委員がおっしゃるとおり、子どもも市民であるという意味では

策定部会でも青少年について改めて入れる必要があるのではないかという意見が出ました。教育委員さんからご覧になると不十分だということだと思います。生涯学習につきましても、本日配付した素案では不十分だというご指摘、あるいは、こういうところは押さえる必要があるなどのご意見がございましたら、検討させていただきますので、ぜひ率直なご意見をいただければと思います。

【根拠等推進協議会会長】 子どもについては、一応一覧表で2カ所ぐらい書いてあると思いますが、特にボランティア体験というのは、やはり小学校から大事だと思っていますので、学校教育の中にそういうことをもっと充実させようということを入れてあります。子どもについては、学びの里3プランを作る際に、小中学生は教育21世紀プランで扱い、それ以降のことを生涯学習推進プランで扱うという位置づけがあったと思います。就学前の乳幼児期については子育て支援計画、小中学生については教育21世紀プラン、生涯学習推進プランは高校生も含めたそれ以降という出発点がありましたので、それを受け継いでいます。高校生についてはかなり議論の中で出てきましたが、子どもについては21世紀プランでという位置づけがありましたので、市民活動推進プランで書くことについてどうだろうかということになっています。

【井上委員長】 すみ分けをしたということですか。

【根拠等推進協議会会長】 はい。ボランティア体験は小学校時代から大事ですので、学校教育の中で特に福祉的なものは入れたいということから入れています。そのような趣旨で、必要ないということではなく、今回はあまり入っていないということがあります。

【中岡委員】 今のすみ分けの説明で少し頭の中がすっきりした部分があります。これまでの関連部分を応急的にまとめてみましたが、子どもたちの教育等に関しては教育21世紀プラン、乳幼児は子育て支援計画、それよりも上の年代については、最後まで学びをとということで、生涯学習推進プランで取り扱っているということだと思います。ただ、この生涯学習推進プランは、「誰でも、どこでも、いつでも」気楽に学んでいきましょうというもの。それがやはり生きがいにつながっていくと思いますし、これが学びの里宗像の大きなテーマにつながったものであったと思いますが、今回の市民活動推進プランでは生涯学習の「誰でも、いつでも、どこでも」多くの人に学んでもらいたいというところが少し薄くなっているような印象を受けます。市民活動までつながらないと、その学びをすることができづらいという印象を感じてしまう部分がありました。重点目標として5項目があがっていますが、生涯学習に関わる部分としては、重点目標1「きっかけづくりを進めます」の中の重点施策である「生涯学習の推進」だと思いますが、この中でも指導者の養成という部分が大きく出てきます。これは最初に市民活動推進プランが生涯学習推進プランから発展的に作られているプランであるというところで書いてありますが、そういうところからくるのであろうと思います。生涯学習については、施策の1、重点目標3の「人づくりを進めます」でも同じようなことが出てきますが、やはり重点施策1として、「人材育成の機会提供」となっています。重点施策2も「人材発掘と養成の促進」ということで、1人1人の学ぶ意欲を高め、その機会を作っていこうという部分が薄まってきているという気がします。確かに一歩進んで、生涯学習を発展的に

やっていくということはわかりますが、今から学んでいく人たちも当然いらっしやると思います。ルックルック講座や協働大学などいろいろな取組みの中で学ばれてきて、市民活動団体等に入られたり、地域の中で活躍したりする方もおられると思いますが、そこまでには達していないが実際に今から学んでいこうとしている人たちの個人の学びがもう少し出るといいのではないかと感じました。

【市民活動推進プラン策定部会長】 中岡委員がおっしゃるとおり、今回の中にはまず土台の部分があって人材育成も出てくるということはあると思います。若干その部分についての書き込み不足かもしれませんが、最初の要するに初級レベルの部分は、コミュニティ構想で出ていまして、コミュニティで趣味、文化活動、ボランティア活動をある程度担っていただく部分があるのではないかという感じはございます。ただ、市民活動推進プランの中でもきちんと書き込んでいく必要はあると思います。もう1つ出ているのは、現在、市ではコミュニティごとにどんどん進めており、ある意味では青少年育成の部分もコミュニティの中で青少年育成部会、公民館部会などで取り組んでいらっしやいます。市全体としてなくなっていくのかということはあると思いますので、今お話を伺っていて、その部分を宗像市全体として、市民活動推進あるいは生涯学習として、ある程度きちんと位置づけていく必要があるのではないかという思いがしました。

【中岡委員】 素案の26ページ「推進体制の検討」で、「協働のまちづくり推進本部と市民参画等推進審議会との連携」とあります。両方が連携をとりながらやっていかなければならないというのはよく分かりますが、生涯学習の推進組織である協議会になるとと思いますが、市民フォーラムについてはどうなりますか。

【市民活動推進プラン策定部会長】 市民フォーラムにつきましては、当初は生涯学習支援団体でしたが、19年に改組発展して生涯学習も含めた市民活動の中間支援組織になりました。市民フォーラムは、協働委託等も受けていますし、確かに宗像市の特徴の1つになってきていると思いますので、具体的な名称をあげてこの中に位置づけさせていただけるとありがたいです。

【市民活動推進審議会副会長】 最初1点目に学習の機会、市民学習が少し弱く、関わりが薄くなるというご意見がありました。むしろ私は出発点だと思っています。「誰でもどこでもいつでも」が生涯学習のキャッチフレーズのようなことですから、それはむしろ意識して機会を増やす。市民活動にしても、生涯学習にしても、一般的に生涯学習でイメージする、机に座って教室で学ぶなどということではなく、もう少し広くとらえているということと、きっかけづくりはボランティアでもそうですが、今アンケートをとっても「学びたいけれどどこに聞いたらよいか分からない」という声はかなりあがっています。2番目のきっかけづくりと関係がありますが、情報の発信をもっと工夫して、特に若い世代であれば、ペーパーではなくインターネットなどを工夫したいと思っています。宗像市でも非常に高齢化が進んでおり、高齢者が増えていますが、そういう人たちの生きがいとして、カラオケや将棋等でもいいと思います。そのような場所があって、ずっとできるということが、生きがいとしてとても重要だと思います。そのことは話の中では出ていましたが、なかなか重点施策で

は表現しづらい部分でした。今でも推進していないことはなく、そのようなことも含めて拡充だと思っています。特に若い方から「どこに聞いたらよいのか分からない」という声が出ていますので、時代にあった情報の発信などが必要だと考えています。それから、高齢化ということで、今70代の方は本当に元気ですから、単に個人の学びではなくて、そういう方をコミュニティなどでもっと活用していいのではないかと出ています。今までよりもっと幅広い年齢の方が持っている力を生かせるような生涯学習であって、まちづくりにつながっていけばいいと考えていますが、素案だけみても伝わりづらい面があるのかもしれない。

【市民活動推進部 長】 市民学習ネットワークの指導者の養成と書いていますが、指導者が増えることによって、コミュニティの教室などが増えていくという意味がありまして、やはり学習する土台を大事にするということはこの中に含めているととっていただければと思います。

【市民活動推進部 副部長】 学びの里のプランでは、中央公民館を生涯学習センターとしようということで、ワークショップも開催されており、1、2回参加したことがあります。当時関わっていたメンバーで今も市民フォーラムに残っていらっしゃる方がいますが、その時は本当に市全体として生涯学習の充実を考えていたと思います。その後、市民活動の推進も重要となっていき、今その流れの中においても、市民フォーラムは重要な役割を担っています。今回、プランづくりに時間をかけようとしているのも、実際に活動をしている現場の声をできるだけ丁寧に聞こうということで、市民フォーラムが中心になってアンケートをとったり、意見交換会を実施したりしています。市民が何か事業をしたいという時の相談窓口となり、市民の目線で非常に充実した本当に良い活動をしていただいています。実際の現場を知っている市民フォーラムの人たちが行政と一緒に市民の相談や助言にあたっていることが、宗像市のとても大きな力になっているのではないかと、ここ3、4年見ていて感じます。

【井上委員長】 意見交換をされてきた中で、生涯学習が薄れるのではないかと意見はありましたか。

【市民活動推進部 副部長】 そんなに強くはありませんでした。

【市民活動推進部 副部長】 要望として生涯学習も大事にしてほしいという意見も出ましたが、心配する声はあまり聞かれませんでした。

【井上委員長】 市民活動推進プランについて、ほとんどの方に十分理解を示していただいているということですか。

【市民活動推進部 副部長】 まだ途中の段階ですから、はっきりとお答えするのは難しいです。市民活動団体には、子育て関係、生涯学習や教育関係の方がたくさんいらっしゃいますが、もっと幅広い分野の方がいらっしゃることもあると思います。

【平田委員】 細かいところが、「拡充」という言葉の中に隠れているということが分かりましたので、そういう面では安心いたしました。もっと情報を発信していかなければ、なかなか市民レベルには行き着かないので、そこが課題と感じました。

【川上委員】生涯学習が薄れるのではないかという声が意見交換会で出なかったのは、おそらく参加していらっしゃる皆さんは、これまでも市のためにがんばってきていただいております、その方々の常識として、「学んだ上で活動して、さらに学ぶ」ということが概念的に存在しているからだと思います。私たちが一番心配しているのは、まだその段階に至っていない人が、そこに入っていきける環境にあるかという点です。「あんなに活動していてとても自分は入っていきそうにないけれど何か学びたい」という人たちが、そこで躊躇して切り捨てられないかというのがすごく心配な部分です。例えばメディアを使つての発信等で若い人がどんどん入っていけば、宗像市が望ましい元気なまちになっていくと思います。生涯学習、社会教育もそうですが、子どもは子育て支援計画、コミュニティはコミュニティのプランなど、それぞれに分散されすぎていて、生涯学習の概念や宗像市としての社会教育のあり方などの大本の部分がどこにも謳われなくなり、最初は常識だったものが10年経った時点ではなくなってしまって、活動だけが走っていく状態になるのではないかとというのが一番心配している点です。

【井上委員長】例として社会教育委員の会が現在は休止状態にあります。このことについては教育委員会でもずいぶん議論をしました。事務局の話では、社会教育委員が担う仕事が他の審議会等へ流れていて見あたらないとのことでしたが、教育委員会としては、社会教育委員は継続して置いておくべきではないかという考えがありました。教育委員会の意見をフィードバックして社会教育委員の会で検討していただいた結果、現在は休止状態になっています。同じ方に関わっていただいている間は安心できますが、ずっと関わっていただける保障はなく、そうなった際におかしくなってしまうのではないかとという危惧があります。休止状態にしておけば、必要になれば復活できます。重点目標が5つございますが、重点目標4「仕組みづくりを進めます」の内容を見ますと、自主財源の確保や補助金など予算面のことが書いてあります。この内容で「仕組みづくりを進めます」というタイトルになっている理由を教えてください。他の項目はタイトルと重点施策が合致していますが、重点目標4だけは合致していないような気がしますので、違う表現の方がいいのではないかと思います。

【市民活動推進プラン策定部会長】今回の資料は途中段階のものですが、重点目標の名称に関しましては、「〇〇づくり」で統一しようとしたところがございます。昨年からの会議の中で予算的な保障がないと、市民活動や生涯学習は非常に厳しいのではないかとということで、予算的なところに少し重点をおこうという意見が出ましたのでその名称を用いています。

【井上委員長】予算的な部分分かるような重点目標の名称にしてもらった方がいいのではないかと思います。

【市民活動推進プラン策定部会長】財源だけでは入らないところがあるかもしれません。

【市民活動推進プラン策定部会長】例えば井上委員長に代案がございますか。

【井上委員長】代案はございませんが、合致していない部分がありますので意見を言わせていただきました。中身を反映しないと、キャッチフレーズにならないのではないかと思います。

【根拠職方協議員】 今後検討させていただきます。

【久芳教育長】 それぞれの委員から生涯学習の基本的な部分が揺らいでくるのではないかという意見が出ていましたので、本日このような場を持たせていただきました。教育委員会で議論する事項は非常に幅が広いのですが、実働部隊である所管部署が教育委員会の事務局から外れているために、時として情報が錯綜したり報告があがってこなかったりすることがあります。特に先ほど東副会長から説明がありましたように、個々の部分で計画立てていますので、今回のように重複しないようにすると、私たちにとっては分かりづらい面があったと思います。逆に言いますと、市民活動推進プランを見て全体がある程度分かるようなものが、仮に可能であれば、そこに追加してもらえたら非常に分かりやすいのではないかと思います。最終的には、市民活動推進プランが大きなプランの1つになりますので、そのような意味では、ある程度、全体図が分かるような形ですと、読んでいて非常に分かりやすいのではないかと感じました。生涯学習と社会教育につきましては、いろいろな課題があると思います。先ほどから議論されていますが、やはり生涯学習は、個人のそれぞれの責任、関わり方が基本だと思っておりますので、情報提供ということもありますが、継続的に生涯学習というのが宗像市独特の良い取り組みとして、この中に盛り込まれたらありがたいと感じました。

【根拠職方協議員】 当初は私も勘違いしておりまして、市民活動推進プランがあって、いろいろなプラン等があると思っていました。ところが、それぞれが対等な関係だということが途中の段階で分かったのです。5ページに一部図式化していますが、私自身もまだ理解ができていません。これは実は市の機構、部局の分担の部分に関係していて少し分かりにくいところがあります。ですから私たちもわからないところをお尋ねしながら進めています。全体としましては、本来的には、市民活動推進プランがあって、その中に文化芸術等を含めるのもいいのではないかという感じもありますが、今回はいくつかのプランがもうすでに出ていますので、そちらの中で押さえながら進めることになります。重ねて書くべきところもあるというお考えでいらっしゃると思いますので、その部分につきましては教えていただきながら進めていきたいと思っております。

【井上委員長】 少しでも重ねると全くないのではイメージが変わってきます。本日のお話をお聞きして、いろいろな検討を重ねてこられたことがよく分かりました。

【根拠職方協議員】 先ほど川上委員からありましたように、生涯学習や社会教育に関わるということがいろいろなプランに分かれているということですが、確かにそういう側面はありますが、現在、第2次マスタープランを策定していますので、その中で1つの柱として何らかの形で入っていれば分かりやすいのではないかと考えます。それを受けていろいろな具体的な計画に生かされてくると思います。どのプランの目的も、市民にとって心の豊かさを含めて本当に住みやすく満足して生活できるまちづくりだと思います。宗像市をもっとよくしたいと思っている市民がたくさんいると思いますので、そういう力を生かして、行政が一緒になってまちづくりをすることはとても大事だと考えます。福岡県は戦後、自治公民館を中心にして非常に社会教育が発展しました。10年前に社会教育で非常に有名な北九州市の穴生公民館を視察させていただいたことがあります。ボランティア室の

ようなものがあり、町内会、民生委員、老人会の方など地域の人が、会合が終わった後にふらっと来られて情報交換をしていました。夏休み中で、「今日の午後から児童館の子どもたちをプールに連れて行こう」と老人会の役員の方が話していたり、民生委員さんが「実はあの地域は高齢化していて、今見てきたけど、こんなことがあったよ」と話していたりして、本当に自然に皆さんが共有していました。宗像市でコミュニティ施策を始めた頃でしたので、地域で活動している方が何か用事があるのではなく、気軽に来て情報交換し、地域の課題を把握できるこのような形のコミュニティになったらいいと思いました。自治公民館もやはり大事だと思います。生涯学習や社会教育が生きた形で市民活動と関わることでもっと良くなると思いますので、そういうことに役立つようなプランを作りたいと個人的には思っています。

【中 岡 委 員】 平成17年に10年プランとして策定された第1次宗像市総合計画では、生涯学習都市宗像、学びの里宣言が1つの骨組みになっていたと思います。平成27年からの第2次宗像市総合計画の策定作業に現在着手されているとお聞きしましたが、市民活動推進プランがこの総合計画の大きな骨組みの1つになるのではないかと考えているところです。その中で、推進組織として、推進本部や推進委員会があり、市をあげて、全庁的な規模で取り組みを進めていこうという意気込みもあり、そのような組織が作られたと思います。第1次宗像市総合計画において、新しいまちづくりは市民活動の推進であるとすでに謳ってあり、それを受けて市民参画条例あるいはコミュニティの基本構想、基本計画等が出来上がってきたという流れになっていると思いますので、第2次宗像市総合計画の中での市民活動推進プランの重要性を非常に感じています。いろいろ細かいところまで申し上げて申し訳ありませんが、市民活動推進プランの推進組織、体制がよく見えない部分があります。非常に重要な骨組みになるだろうと思っておりますが、どのような形になるのでしょうか。

【市民活動交流室長】 最後のページに、重点施策として推進体制の検討をあげております。市民活動に関わる部分、市民参画・協働も幅広く影響してきますが、担当部署だけで取り組んで広がるものではありません。実際にいろいろな計画の中に市民協働の部分があります。教育委員会の所管の中でも、例えば読書リーダーの養成などがあります。担当部署で実際に取り組まないともちづくりにつながっていかない状況にありますので、ここに書いていますように、協働のまちづくり推進本部として、全庁的に推進できる体制を検討していこうとしています。この中でいわゆる個別の施策や職員の意識改革に取り組みます。このように計画に示すことによって、今まで進めてきたことを行政としてしっかりとらえて市民活動を推進していく体制をとることになります。

【中 岡 委 員】 簡潔に言いますと、協働のまちづくり推進本部の方で、コミュニティと市民活動団体の2本柱で進めていこうという形ではないかと思えます。

【市民活動交流室長】 はい、そうです。

【中 岡 委 員】 コミュニティと市民活動の両方が市民活動推進に大きく関わって、協働のまちづくりでやっていくということだと思いますが、市民活動推進プランそのものを推進する組織はどの

ような形になるのかを教えてくださいたいです。

【市民活動交流室長】 具体的に推進する部署についてのご質問と解釈してよろしいですか。

【中岡委員】 はい。

【市民活動交流室長】 来年度の機構改革にも影響してくる部分だと思っておりますが、現在の機構としては市民活動の所管として市民活動交流室があり、コミュニティ活動については、コミュニティ課が担当しています。それぞれの部署で推進しているところですが、関連して進めることになると、別々ではなく一緒に進める必要があると思っておりますので、行政の組織としましても、それを統括する部署を検討する必要があります。統括する部署がコミュニティ活動と市民活動の推進に関わり、関連計画の進行管理をしていく形を現在検討しています。

【井上委員長】 重点目標5に、「関係部署における地区担当制の導入」がありますが、このような取組みが市民活動推進プランを推進する上での具体的な施策になるのではないのでしょうか。コミュニティとの関係に市の関係部署が入り込むような考え方だと解釈しました。

【市民活動推進課長】 市民活動推進プランの検証につきましては、おそらく市民参画等推進審議会が進捗管理の一部を担います。具体的なところは、市民活動交流室長がおっしゃったように、市の部局が進めていくことになると思っております。

【中岡委員】 このプランがバックボーンとなり、いろいろな部署でプランにのっかって進めていくという形が見えています。

【市民活動推進課長】 はい、そうです。

【井上委員長】 策定部会としては、プランを作るところまでを担うのですか。

【市民参画等推進審議会会長】 策定部会は審議会としてプランを作っています。審議会の役割として、現在も条例の進行管理に関する課題があれば検討して市に提言していますので、おそらく本プランに関しましても、基本的には条例に関わる分野を検討することになると思っております。

【中岡委員】 まだ少し見えない部分がございますので、今後進んでいく中でまた報告していただけたらと思います。

【井上委員長】 本日、直接意見交換ができたのは非常に重要なことだと思います。今後もいろいろな段階を踏むと思われませんが、またこのような機会を設けていただきたいと思います。事務局としましても、出来る限り報告していただくようお願いいたします。

【市民活動推進課長】 答申自体は全体の審議会に出しますので、全体の審議会でも何回か検討させていただき、またご相談させていただきたいと思っております。

【井上委員長】 お願いいたします。今後のタイムスケジュールについて説明していただけますか。

【市民活動交流室長】 本日、教育委員の皆さんからいただいた意見と庁内から出された意見について、策定部会の皆さんに検討いただき、市民参画等推進審議会に報告し、最終答申に向けた案作りを行いたいと思っております。9月初旬に市の経営会議で方向性を確認しまして、最終的には10月下旬に市民参画等推進審議会から答申をいただく予定です。答申の範囲をどこまでにするのかという点につ

きましても、いろいろな意見をいただいておりますので、今後、策定部会あるいは市民参画等推進審議会で検討したいと思います。その後、市の方向性を受けて、具体的な施策を検討した上で12月にパブリックコメントを実施する予定にしていますが、期間を十分にとることになれば、これは1月にずれ込む可能性があります。最終的には、3月までには策定して議会に報告する予定です。

【井上委員長】 教育委員会に提示されるのは、1月もしくは2月の定例会議になりますか。

【市民協働・環境部長】 答申前にもう一度本日のような意見交換の場を設けていただいた方がよいと考えています。

【井上委員長】 スケジュール的に定例会議に合わせるのが難しいようであれば、臨時会議を開催してもいいと思います。

【市民活動交流室長】 日程に関しましては別途調整させていただきますが、10月に入ってお願いすることになると思います。

【井上委員長】 他にご意見等がございますか。最後にご意見がありましたら松永委員からお願いします。

【市民協働推進委員会委員】 生涯学習と市民活動との橋渡しのところで、最近あったささやかな経験をお話しましたら少し理解していただけたと思いますので、ご披露いたします。先ほども話が出ました、市民学習ネットワークで、「わいわい文章塾」という教室を開いています。身の程知らずの無謀な企画ですが、みんなでわいわい言いながら文章を書いています。その中に南郷在住の方がいまして、この方は7歳の時に長崎で被爆されていて、その体験を夏に語ってほしいと頼まれてきたわけですが、ずっと断り続けてきて、今年初めて語り部をやったのです。教室では私は一応先生ですので、「先生、こういう文章を書いてきました」と、かなりの長文を書いてこられて、今年やはり自分で文章を書いて初めて語り部を務めてみようと思ったということで、一歩踏み出されました。それから、もう1人おられて、この人は8月9日に文章を1つ持ってこられて、目が不自由な方を対象としたボランティア活動に1歩とまではいきませんが半歩踏み出したということでした。こちらはわりと短い文章でしたが、「ちょっと見てください」と言われました。いわゆる書いた文章ではなく、語りの文章ですので、少し手を入れる必要がありましたが、結局文章に関わるようになり、そういうボランティア活動があつて、自分もちょっとやってみようかなということで、まだそれこそ一歩もいかず半歩踏み出したということですけど、短い文章を書いてこられました。書く楽しみによって、自分たちの心を耕していく、自分の人生を豊かなものにできたらいいなという動機で、多分入られたのだと思いますが、そこから、片や被爆体験の語り部に初めて挑戦する、片やボランティア活動に半歩踏み出すという事例にたまたま今回出くわしましたので、本日議論の1つの柱でした、生涯学習と市民活動とをつなぐものは何なのか、ではどうあればいいのか、ということの1つのヒントになるのではないかと思いますのでご披露しました。

【井上委員長】 本日はお忙しい中、誠にありがとうございました。

【各委員】 ありがとうございました。

【市民活動推進プラン策定部会長】 貴重なご意見をありがとうございました。ぜひ参考にさせていただきます。

② 教職員の人事について（資料なし）

議事録非公開

次回開催予定日 9月19日（水）午前9時30分開始

平成24年 9月19日

井上 裕之

川上 美子
